

東京農業大学の見学が開催されました

研究推進部 研究推進室 後藤眞宏

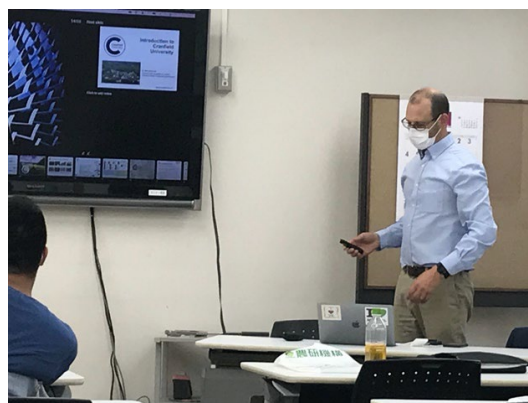
9月22日、東京農業大学地球環境科学部生産環境工学科の鈴木伸治教授、学生2名、そして英国クランフィールド大学の Dr.Simmons が当部門を見学しました。当日は、まず三木研究員から農業用水路における流水熱利用の実験について説明があり、水路の熱利用、小水力発電などエネルギー利用について活発な質疑が交わされました。

施設を見学した後、Dr.Simmons を囲んでミニセミナーを開催しました。講演テーマは、「Studies on sustainable soil management, food safety and enhancement of crop productivity (持続可能な土壌管理と作物の安全性、増収に関する研究)」です。クランフィールド大学は大学院大学であり、日本だと奈良先端科学技術大学院大学のように、研究に特化した大学とのことでした。例えば、作物の生育環境を制御しながらフェノタイプを精密にモニタリングするような精密温室などの研究が紹介されました。先日、農研機構の記者レクで「ロボティクス人工気象室」が紹介されたが、同様のことをイギリスでもやっており、興味深い内容でした。また、Dr. Simmons は、農工研の吉本上級研究員や中田上級研究員が長期派遣されていた国際水管理研究所 (IWMI) で働いていたことがあり、その頃の研究としてタイの水田におけるカドミニウムの汚染状況やファイトレメデーションに関する研究の紹介がありました。さらに、クランフィールド大学で現在実施しているアスパラガス等の高収益野菜に関連した農地保全に関する研究を紹介いただきました。

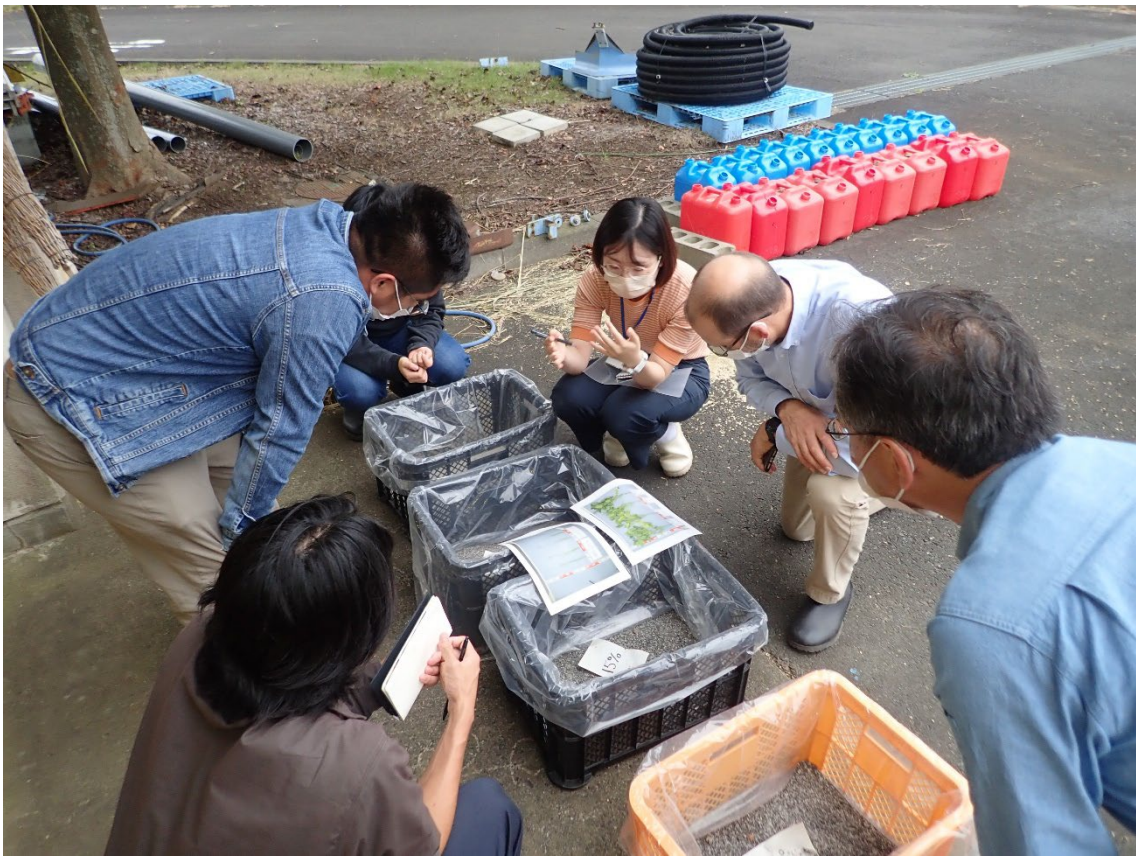
その後、水田実験棟において、バイオ炭でコーティングした肥料の実物を見ながら、久保田研究員から日本におけるグリーンイノベーションやカーボンニュートラル戦略について説明があり、意見交換が実施されました。また、畑地灌漑圃場の温室において、岩田上級研究員からアスパラガスのライシメータ試験や地中熱ヒートポンプについて説明がありました。



三木研究員



Dr.Simmons



久保田研究員（中央の説明者）